

外国語における「課題発見・解決学習」の実際

1 本事例における「課題発見・解決学習」のポイント

①本事例における「課題発見」のポイント

本事例では、外国語科英語表現Ⅰの学習内容と、総合的な学習の時間及び学校行事において設定された、留学生に自分たちの街を案内するための「街歩きガイド」の活動とを関連付けることで、英語の使用場面の真正性をもたせた。また、生徒全員にガイドを行うよう求めることにより、活動を自らの課題（自分事）として捉えさせて取り組ませている。

本学習で生徒に設定させたい課題は、「自然な会話のやりとりを継続できるようになりたい。そのためには何が必要か。」であり、授業において生徒に「街歩きガイド」のやりとりの場を疑似体験させることにより、生徒が課題を意識できるようにすることを旨とした。

②本事例における「教師の働きかけ」のポイント

導入において、生徒に課題設定につながる気付きを促すために、指導者が生徒とのデモンストレーションを行った。生徒に理解できない表現の意図的な使用や、やりとりが円滑に進まない場面の実演などを通して、聞き手を意識することや目的を明確にすること、聞き直しのストラテジー及びアイ・コンタクトやジェスチャーなどのデリバリーが必要であることを生徒に意識させている。そして、円滑にコミュニケーションを進めることができている場面を見せ、どんなことができるようになりたいか、そのために何が必要かについて生徒に個人思考させ、それについて、まずはペア、その後全体で共有させることを通して、段階的に課題の意識化を図っている。また、留学生の立場を体験させることで、案内される立場では何を知りたいのかについても考えさせている。

③本事例における「振り返り」の工夫

1回目のガイド演習の終了後、うまく実施できた点とうまく実施できなかった点とを振り返らせることで、改善策を考えさせ、2回目のガイド演習に生かしている。また、代表の生徒のペアによる発表についてクラス全体で振り返らせることで、客観的に評価する視点を与えている。さらに、全体での振り返りを踏まえて個人で振り返らせることで、実際の「街歩きガイド」への改善策を考えさせている。

2 指導助言者(広島大学大学院教育学研究科 深澤 清治 教授)から

外国語科における「課題発見・解決学習」の事例として、日本に滞在する留学生を対象に自分たちの街を案内するための「街歩きガイド」の場を疑似体験させることは、教室活動の発展タスクとして有意義な活動になるであろう。そこでそのために必要と思われることを指摘したい。

①教師の働きかけとしての input, output, interaction

教室場面での練習活動から、一挙に自然な会話のやりとりを始めたり、続けたりすることにはつながらないことが多く、そこに至るための段階を踏んだ仕込みを用意することが求められる。言語の習得に不可欠となる i) input (入力), ii) output (出力), iii) interaction (やりとり) を取り上げれば、まずはどのような場面やことばの働きが考えられるか、その言語リソースとしての入力を十分に用意することが必要であろう。続いて、相手を想定して、役割練習などを通して実際に話してみる練習が必要となる。予め用意した内容を読み上げるのではなく、いかに相手を意識した発話を行うのか、また自分の表現力の不足などを出力を通して意識することができる。さらに相手を想定しながら、どのような内容を相手が求めるか、どのように表現すれば分かりやすくなるか、表現に詰まったときにどのような方略を用いて状況を打開するのか、実際にやりとりを通して体験的に学習することが必要である。このように、事前準備段階において、疑似体験を通じた教師側の働きかけによって、生徒がどのくらい課題を意識化できるかがカギとなる。

②評価のためのルーブリック

実際の「街歩きガイド」の実施とともに、どのような振り返りを行うかが、「課題発見・課題解決」につながる。まず内容面において、留学生が聞きたいと思うことを準備できたか、過不足なく答えることができたかを、留学生の反応を通して評価することができる。次に言語面において、練習した表現が実際に使えたか、伝わったか、自分で別の分かりやすい表現に変更できたか、など、アウトプットを通じた課題を意識させることが必要となる。最後に、態度面としてどのくらい相手と積極的に対話できたか、分かり合おうと努力したか、などの観点も必要となる。次の機会に向けて、自らがどのレベルにあるのか、目指すレベルをどこまでに設定してがんばるか、など自らの主体的な目標として設定することが肝要であろう。

3 事例

◇ 本単元で育成する資質・能力

聞き手や目的に応じて簡潔に話す力

◇ 学年 第1学年

◇ 単元名 For Communication 2 【聞き直す・繰り返す／道案内】

◇ 本単元の目標

道案内に関する表現やコミュニケーションを円滑にするために必要な表現を活用することができる。

【本単元の特徴】

本単元の目標を達成するために、道案内に必要な既習の定型表現等を実際の「街歩きガイド」の場面で活用するという、言語の働きと言語の使用場面とを有機的に組み合わせる工夫を行っている。
本学習において、円滑にコミュニケーションが成立しない状況を観察することで、自然な会話のやりとりを継続できるようにしたい、そのためには何が必要かという課題を生徒自身が見いだすことのできる展開となっている。

時	本単元の主な学習活動
1	導入：道案内の基本的な表現の確認
2	展開：道案内と聞き直しの表現を使った話す活動
3	スピーキングテスト（道案内と聞き直しの表現の定着）
4	まとめ：道案内と聞き直しの表現等を使って、自然な会話のやりとりを継続させるために必要な視点を考え（課題発見）、それらを踏まえて表現する（解決）。（本時）

◇ 本学習の目標

道案内に関する表現や、聞き直す、繰り返す、言い換える、話題を発展させるなどの、コミュニケーションを円滑にするために必要な表現を使って、自分たちの街について、自然な会話のやりとりを継続することができる。

◇ 学習の流れ(4時間目／全4時間)

学習過程（○教師の発問、●生徒の反応予測）	指導のポイント	評価規準〔観点〕 （評価方法）
<p>1 課題を見いだす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ウォーミングアップ 「街歩きガイド」の概要を確認（誰を相手に、何の目的で実施するのかについて確認する。） ○What event will we have this weekend? ●We will have a guided tour. ○What will we do during the event? ●We will show our town. ○To whom will we show our town? ●To foreign students. ○Do they know about our town? ●They don't know about it. ○How long will we have the tour? ●We will have it for one hour. <p>・教師と生徒との模擬実演、他の生徒は観察</p> ○What do you think about our demonstration? Was it good or bad? ●It was not good. ○Why do you think so? What do you want to do? Talk with your partner.	<ul style="list-style-type: none"> 言語の使用場面を適切に設定する。 生徒から引き出す。（場所、人、行動、時間） <p>【発問の意図】 聞き手や目的について考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒に理解できない表現を意図的に使用したり、やりとりが円滑に進まない場面を実演したりすることで、どんな姿になりたいかについて課題を明確にさせる。 <p>【発問の意図】 どんなことができるようになりたいかについて意識させる。</p>	
<p>2 課題を設定する。</p> <p>【課題】 We would like to have a longer and more natural conversation. What do we need to do so?</p>		
<p>3 課題解決のための手立てを明確にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題解決のために必要な要素の検討（態度、話題、質問、指示、説明、聞き直し等） 	<ul style="list-style-type: none"> 発散思考 個人→ペア→全体 <p>「自然でない会話のやりとり」を見た際の気付きから課題解決に必要な要素を考えさせる。</p>	
<p>4 課題解決を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「街歩きガイド」での予想される会話原稿を作成する。 会話：日本人生徒 ⇔ 留学生 	<ul style="list-style-type: none"> 「街歩きガイド」を行う相手である留学生の名前、出身国等をそれぞれの生徒に伝えて、より実際に近い場面を設定する。 道案内等の表現を使って、自分の説明をどのようにすればよいか、また留学生への質問をどのタイミングですればよいかを考えさせる。 1回目を終えた後、自然なやりとりにならなかった点を振り返らせて全体で共有し、2回目への改善策を考えさせる。 	
<p>5 自分の考え（解決策）を表現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ペアでの街歩きガイド演習（1回目） ピアレビュー及び教師によるレビュー 街歩きガイド演習（2回目） 全体での発表 	<ul style="list-style-type: none"> 発表でのよかった点と取りあげる。 うまくいった点とうまくいかなかった点の両方を書かせる。後者に関しては、どうすればよいかを考えて書かせ、「街歩きガイド」への改善策とさせる。 	<p>道案内と聞き直しの表現等を使って、自然な会話のやりとりを継続することができる。</p> <p>〔外国語表現の能力〕 （ワークシートと観察）</p>
<p>6 振り返りを行う。（新たな課題を発見する。）</p> <ul style="list-style-type: none"> 全体での発表に関する振り返り 個人での振り返り 		

◇ 実践結果

【課題の練り上げの状況】

課題を練り上げるための発問①
(相手や目的を意識させる)

T: What event will we have this weekend?

S: We have guide.

T: Yes. We will have a guided tour. What will we do during the event, then?

S: Show our town.

T: Okay. We will show our town. To whom?

S: Foreign students.

T: Right, exchange students at Hiroshima University. Do they know about our town?

S: Maybe not.

T: Good. They don't know about our town well. And how long will we have the guided tour with them?

S: About one hour.

課題を練り上げるための発問②

T: What do you think about our demonstration? Was it good or bad?

S: Bad.

T: Okay. Why do you think so, then?

S: Too short.

S: Not natural.

S: No reaction.

T: So what do you want to do?

S: We want to have a long conversation.

【課題解決への手立て】

T: Excellent. So when we want to have a long and natural conversation with exchange students, what do we need? Talk with your partner.

上記の発問により、生徒に個人思考をさせた後、考えをペアで共有し、最終的に次のように全体で共有させた。

T: Now, come to the front and write as many ideas on the blackboard as possible.

(生徒が板書する) <生徒の板書をそのまま抜粋>

S: Smile.

S: Expression.

S: Don't shy.

S: Ask questions.

(教師は生徒の板書から分類した)

T: Smile - This one is attitude.

Don't be shy - This is activeness.

Ask questions - This is interaction.

And expression. You have learned phrases such as "Turn left", "Go straight" or "Pardon?" in this lesson, so you can use them in a conversation. These are important elements to keep the conversation natural.

教師によるファシリテーションの結果、attitude, activeness, interaction, expression の4つの視点で思考の整理をし、課題解決への視点を明確化した。

【振り返りの成果】

①授業中の言語活動における教師の振り返り

○Expression について

授業で行った言語活動では、身に付けさせたい表現 (Go straight, Pardon?等) を使いながら、ほぼ全ての生徒が活動に取り組んでいた。

○Attitude について

活動の合間での教師による振り返りを効果的に行ったことで、ジェスチャーやアイコンタクトなどを適切に活用できていた。

○Activeness について

不自然な沈黙がなく、相手に合わせてコミュニケーションを継続することができていた。

○Interaction について

一方だけが話すのではなく、相手の発言に応じて質問やうなずく等の適切な反応をしていた。

②「街歩きガイド」実施後の生徒による振り返り

○「聞き手や目的に応じて簡潔に話すことができた」と回答した生徒の割合は72%であった。

○「英語をもっと学習したい」と学習意欲に向上が見られた生徒の割合は88%であった。

◇ 検証及び今後の方向性

【検証】

- 相手に伝えたいことを理解してもらうためには、聞き手が既にもっている知識、聞き手の興味・関心や態度、聞き手の年齢等を考慮して、伝えたいことが相手に適切に伝わるように話す必要がある。その点を明確にさせるとともに、週末の学校行事である「街歩きガイド」の実施に向けて、事前に以下の3点についてクラス全体で確認した。
 - ①海外から日本の大学へ勉強をするために来ている留学生に対して、「街歩きガイド」を行う。
 - ②目的は、自分たちの街をよく知らない相手に対して、自分たちの街を紹介するとともに、興味や関心をもってもらうことである。
 - ③案内する時間は約1時間である。
- 生徒に理解できない表現を意図的に使用したり、やりとりが円滑に進まない場面を実演したりすることで、どんなことができるようになりたいか、「自然なやりとり」にはどんな視点が必要かについて、段階的に生徒に課題を意識させることができた。しかし、「笑顔」、「アイコンタクト」や「ジェスチャー」「リアクション」など態度に関わる項目に偏る傾向が見られたため、本単元での既習の言語材料や定型表現等をより活用できる場を導入する必要があった。
- 生徒から意見をできるだけ多く出させ、それらを集約し、課題解決に向け、自然な会話のやりとりを継続させるために必要な視点を以下の4つに絞った。
 - ①態度 (笑顔, アイコンタクト, ジェスチャー等)
 - ②積極性 (恥ずかしがらない, 照れない等)
 - ③やりとり (一方的な案内や説明だけでなく、こちらからも質問する等)
 - ④表現 (道案内での定型表現等)
- 口頭だけの確認ではなく、ペア活動を通して生徒自ら考えた意見を板書させることで、自然な会話を継続させるために必要な視点を、クラス全体で視覚的に共有させることができた。さらに、生徒が板書したものを教師がグルーピングすることによって、より明確に思考を整理させるとともに、課題の解決に向けた視点を明確にさせることができた。

【今後の方向性】

- 課題の確認において、上記のとおり態度面に焦点が偏る部分があった。外国語科の目標を鑑み、言語材料や技能面での課題設定を行うことに焦点を当てる必要がある。正確さを意識するためには、語彙・語法・文法にも焦点を当てる等言語材料への意識を忘れてはならない。
- 本事例においては、コミュニケーションを行う目的・場面・状況が適切に設定されていた。現実的な場面設定により、生徒が活動に積極的に取り組んだことから、言語の適切な使用場面を意識した学習活動を今後も継続して行っていくことが大切である。
- 他者との関わりを通して、できたことやできなかったことを振り返り、それらをもとに自分の考えや情報などを形成し、整理し、さらに再構築することへつなげていくことが、資質・能力を育成するために必要である。
- 課題発見の場面を大切にするあまり、課題を生徒自らで設定させることを目的化してはならない。外国語科の場合は、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の4技能をベースにしたスキルの習得を目標に置き、課題発見はその効果的な手法の1つと捉え、目標達成のために「課題発見」をさせ、生徒の主体的・対話的で深い学びを促す学習活動を充実させることが必要である。